

みんなちがってみんないい

－ 紀の川市 －

1 紀の川市 子どもの居場所作り事業「みんなの家」

【活動日】水・木（全59回） 長期休み36回

【活動場所】東国分教育集会所

【1回の参加児童数】平均 20人

2 紀の川市 子どもの居場所作り事業「みんなの家」の工夫

同じ地域に住んでいる特別支援学校に通う生徒とも、交流ができるように実施している。違うからこそ個人の大切さを伝えるようにしている。長期休みは聴覚障害についてなど人権学習にも取り組み、異年齢の子供が関わりをつくることで、考えることの大切さなども活動の中に取り入れている。

3 取組の具体的な内容

(1) 放課後の学習支援の提供と実際

① 活動の内容

平日は宿題の支援を行っている。また、硬筆、英語教室などのグループ支援を行ったり、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を意識したグループでのテーブルゲームなどを行っている。

休日や長期休み中は、宿題の支援を行っている。また、異年齢間でのダンスや劇、合奏などにも取り組み、保護者に発表したり、地域の高齢者施設へ行き、発表をしている。ハロウィン、クリスマスなどの季節の行事やドラマサークル、カプラワークなどの体験や人権学習などを実施している。

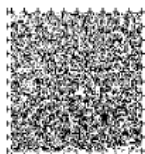
② 児童生徒、保護者、関係者、地域の方々などの感想

- ・子供の声が地域に聞こえてくるのは良いことなので安全に運営してほしいです。（地域の方）
- ・6年間、スポ少などは参加しなかったが、ここでやり遂げたことを自信につなげてほしいと思います。（保護者）
- ・学生が、仕事につくまでいろいろな取組に触れることになり、保育実習のための実習になっているので良かったです。（短期大学関係者）

(2) 人権学習

① 活動の内容

振興局の手話通訳士に来ていただき、聴覚障害のある方の困った話を聞きながら手話を10個ほど教えていただいた。子供たちは自分と同じくらいの聴覚障害のある子供が困っている話は身近に感じたようで、とても印象深く心に残っているようであった。



② 児童生徒、保護者、関係者、地域の方々などの感想

- ・小学生の子供たちと聴覚障害についてお話がきけて良かったです。(高校生ボランティア)
- ・僕も、耳が聞こえていない人が困っていたら、字を書いて説明したり、「どうしたの?」という手話をしたいと思います。(児童)



発表会



人権学習 手話

4 事業を実施して

「放課後子ども教室」から10年、この地域で実施させていただいている。子供たちの中には発達凸凹している児童もあり、視覚支援があると子供たちが自分で理解して活動に参加できている。テレビゲームなど1人で遊べるゲームや、一人っ子も多く、集団の遊びになると上手くコミュニケーションがとれず、指導員が子供たちの仲介をすることが多い中、ルームに通い続けている高学年の子供たちが自然と低学年の子供に宿題を教えてあげたり、けんかの仲裁をしてくれる姿もここ数年見られるようになってきた。異年齢で親以外の大人がいる場面で遊ぶことの大切さを感じる1年だった。子供たちが自主的に考え、自分たちで運営できる何かを今後は課題として取り組みたいと考えている。

5 問い合わせ先

紀の川市町教育委員会 生涯学習課

Tel : 0736-77-2511

Fax : 0736-77-0917

Mail : k150400-001@city.kinokawa.lg.jp

